



# 同友しずおか



## 私の逸品

デモ設備でロボット制御技術を可視化!

(株)アイティエス

詳細はWEBで! (三島支部)

静岡同友会  検索



私の逸品

## 特集

# 同友会と私 ～私の経営実践～

井上 斉氏 ワシロック工業(株)・代表理事

### 会員訪問記

若杉 幸秀氏 (有)ティーパワー・静岡支部  
名倉 篤史氏 (株)ベーシック・中遠支部

### その他 主な内容

県知事新年表敬訪問、同友会大学、静岡大学連携講座、支部だより、イントロセミナー IN沼津、青年部通信、新会員紹介、友達の輪、追悼文

## 平成29年度 重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営を実践する同友会型企業を増やします。
- ② 中小企業振興基本条例運動を推進し、政策実現が行える組織づくり、地域づくりをめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

# 特集 同友会と私 ～私の経営実践～

県広報情報化委員会では、来年度から広報誌を刷新し、「同友会の3つの目的の実践」や「同友会が目指す企業づくり」に着目した紙面づくりを目指して協議を重ねています。今回の特集では、そのキックオフとして井上斉代表理事の経営実践を紹介します。

## 井上 斉氏

静岡県中小企業家同友会 代表理事  
ワシロック工業(株) 代表取締役

井上斉氏は2017年5月静岡県中小企業家同友会代表理事に就任。河合浩史代表理事とともに、静岡同友会のかじ取り役を担っています。そんな井上氏に同友会での学びをどのように自社で実践しているのか。また、経営者として社員とどのように向き合っているのかを語っていただきました。



井上 斉氏

### 経営指針の実践と会社の変化、今後の展望

会社を経営している以上、何らかの経営方針、経営計画を持っているものと思われま。それが成文化されて社内で共有されているのか、それとも経営者の頭の中をめぐっていて、社員は社風として受け止めているのか。どちらにしても経営方針はあることは事実で、それにより会社が公器として成り立っているものです。

当社も翻れば、56年間の歩みの中で、社風による行動指針が日々の積み重ねの中で出来上がり、永らくの間、成文化されていませんでした。高度成長期の中にあって、経営者が持ち前のバイタリティで牽引する環境下であってこそ成り立ちだと思ひます。私が当社に来て26年、入社当初、売り上げ計画はありましたが、それを実行するための行動計画はありませんでした。ましてや経営理念、経営方針の経営スタンスを成文化されたものももちろんありません。バブルが崩壊し、マイナス成長となった最中、経営に対する自社の在り方が問われる時代に、経営方針を明確にし、労使が一丸となって経営にあたらなければ立ち行かなくなることは明確でした。また、自社の経営状態も厳しい環境に置かれ、藁をも掴む思いで2006年に「第3期経営指針を創る会」に入会しました。

一年間をかけ、どうにか自身の思いを入れ込んだ経営計画書が完成。出来上がりと同時に社内で

発表しました。しかし、私自身が創り上げた計画書はなかなか社員には浸透しません。その年、経営側の工場長から「会社に経営指針書はありますか…？」の問いかけに唖然としたことを恥ずかしながら思い出されます。以来、次年度からは部署ごとに次年度計画を策定し、定例会議の中で取りまとめ、次年度の経営計画書として発表するようにしています。

「会社の繁栄と皆の豊かで充実した人生のために」を私自身の行動指針とし、権限委譲と自発的社員の育成が私の大きな仕事だと考えています。社員の成長を見るにつけ、喜ばしく思う日々。社員の成長が会社の発展に最大の成果をもたらすことは言うまでもありません。当社もまだまだ深く浸透した理念とは言い難く、今後、益々の発展のためには、私自身が日々社員のやりがいを醸成し、我が事と思って行動できる社員がいて、そして経営理念を実践していこうと思っています。

#### 略歴

井上 斉 (いのうえ・ひとし)

1964年1月23日、静岡市出身。54歳。1992年7月ワシロック工業(株)に入社。2000年5月代表取締役社長に就任。1992年入会。初代静岡支部長などを歴任し、2015年副代表理事。2017年5月から代表理事を務める。同社は1961年創業。社員数15名。各種建築用コンクリートブロックの製造を中心に、外構工事なども手がける。

# 県知事新年表敬訪問

2018年1月9日(火)に井上斉氏、河合浩史氏の両代表理事が静岡県庁にて、川勝平太静岡県知事を表敬訪問しました。井上代表理事からは同友会の目指す企業づくり・地域づくりに触れながら「2016年12月に制定された静岡県中小企業・小規模企業振興基本条例を、より実効性のあるものにしてほしい」とお伝えしました。その後、静岡県副知事の難波喬司氏、土屋優行氏、吉林章仁氏にそれぞれ新年のご挨拶を行いました。



## 第15期 同友会大学

現代の経営者に求められる様々な素質を相互に高め合うことを目的に、経営者の人間力、幅広い知識や見識の醸成、物事の本質を捉える講座です。次回は3月10日(土)、スポット参加も可能ですので、ぜひご参加ください!

### 第四講 人工知能関連技術の現在とビジネス応用の可能性 —研究事例から考えるAIで今できること、できないこと—

1月13日(土) 静岡同友会 会議室  
講師：狩野 芳伸氏 (静岡大学 情報学部 行動情報学科) 准教授



狩野 芳伸氏

「人工知能」と聞いて、私が真っ先に連想するのはSF映画です。奇しくも今回の講義は、人工知能(以下AI)の進化が「人類を滅ぼす」ということを真剣に議論している科学者に触れることから始まりました。

そもそもAIとは何か。人間らしさは人間が操る言葉にあり、言葉は人間の知能の中核をなしています。狩野先生は、人が日常的に使っている自然言語をコンピューターに処理させる技術、自然言語処理の研究をされています。現在、様々な分野の作業がAIに取って代われようとしています。しかしながら、人工知能の機械学習は、今の

ところ物まねの域を脱していないようで、正解が不定なものは学習できません。また、我々人間が簡単に理解する「常識」をAIに身につけさせることは、非常に困難です。

本講義を通じて、AIは反復作業や正確性、速さが要求される分野で、人間は我々にしかできない創造、芸術、空想、そして愛の世界に生きること、人間とAIが共存していけるのではないかと感じました。

望月 宣典氏 (清水クレジット(株)・静岡支部)

## 静岡大学連携講座



第13講 1月10日(水) 中小企業の成長戦略(小さくても元気で強い会社であるために)  
金指 忠男氏 (株)オートベル 沼津支部

自動車買取を中心に、県内外で16店舗を展開している(株)オートベル。金指氏が力を入れる「人づくり」に触れました。小さくても元気で強い会社とはどのような会社なのか。金指氏は「大きい会社だから安定しているという時代は終わった。時代の流れに合わせた経営をすることが、会社を維持、発展させていく上で最も重要なことである」と学生に伝えました。

第14講 1月17日(水) 地域に根付く産業の歴史  
大石 智一氏 (株)大成社 富士支部

富士市で塗装業を営む大石氏。由比・蒲原地域が発祥の地とされている「鋼構造物塗装」の歴史、塗装業界において由比・蒲原という地域そのものが一つのブランドとして大きな役割を持っていることを紹介しました。また、自身の創業時の想いに触れ「やって失敗が2割、やらずに後悔が8割と言われる。ぜひ様々なことにチャレンジして欲しい」と学生に伝えました。



第15講 1月24日(水) 第五福竜丸 ビキニ水爆被爆事件 ~国連「核兵器禁止条約」採択の出発点~  
杉村 征郎氏 杉村精工(株) 志太支部

年少の頃戦争を経験し、学生時代、地元焼津でビキニ事件が起きたことをきっかけに、仲間と「原水爆反対署名」の活動を行った杉村氏。戦争や核の恐ろしさ、二度と繰り返してはいけないという強い想いを伝えました。また、欧州圏の原発ゼロ・自然エネルギーを中心とした地産池消のエネルギー政策を紹介し、最後に学生に「知らないことを自ら学び、自分の頭で考える人になってください」とメッセージを伝えました。

# 支部だより

伊東例会

## 我が経営を語る

1月17日(水) ひぐらし会館 参加5名

弁護士の杉山伸也氏（伊東ゆうなぎ法律事務所）が報告しました。生まれ故郷への想いもあり、静岡市から伊東市に事務所を移転して1年、ようやく事務所の経営も軌道に乗ってきました。近年、司法制度改革により、弁護士業界は大きな変化の荒波にもまれ続けています。特に「ひとつの職業としての弁護士」という視点からみると、旧来の経営セオリーが通用しない場面にもしばしば遭遇しますし、新しい経営スタイルに挑戦して成功する事務所、失敗する事務所もあります。ただ、このような変革期こそ「目の前の仕事を地道にこなしていく」「こつこつと信頼を積み上げていく」ことの大切さを忘れてはならないのではないかと考えさせられるそうです。



報告後は、商取引におけるリスク回避やトラブル発生時の初動対応について、ケーススタディの形で意見や経験を語り合い、出された疑問点に杉山氏が答えるという形で、実践的な討論が行われました。

野村 勝也氏（㈱野村商店・伊東支部）

御殿場例会

## 失敗は成功への第1歩

1月17日(水) エピ・スクエア 参加58名



高田知氏（㈱タカダ産業）、根上武久氏（㈱中村石油）、駿藤航太郎氏（石の駿東）の3名から、失敗体験報告とそこから得た教訓が発表されました。「いくつもの失敗を繰り返り返し、その度這い上がり今

の状況がある。今年もチャレンジの一年だ」と熱く語った高田氏は今年で77歳。人と本気で向き合うことの大切さも話してくれました。支部を代表する明るいい人柄の根上氏は、資金運用が滞る実体験や金銭トラブルなどの事例を発表。自社の存続の危機があったことも明かしてくれました。駿藤氏は昨年末自身の不注意で体調を壊したことを話し「もし自分が社長だったら許されないこと。将来このままではいけない」と厳しく自分を戒めていました。

グループ討論では、参加者全員が各々の失敗を今後どう対策するか？活かすか？を活発に話し合うことができました。

「失敗は成功への第1歩」経営者として苦い失敗があったとしても、その経験を自分と会社の財産に変える・学びに変えるために、謙虚な姿勢を忘れてはいけません。

岩淵 貴司氏（㈱KTSオペレーション THE GOTEMBAKAN・御殿場支部）

沼津例会

## 土屋副知事が語る東部地区の未来予想図

12月20日(水) ブラサヴェルデ 参加55名

伊豆半島創生という特命を担う静岡県副知事・土屋優行氏を迎えて、伊豆半島地域の現状、今後の展望、また沼津市周辺における県の産業発展に向けた取り組み等をお話し頂きました。まず、伊豆半島地域（7市8町）が静岡市・浜松市と比較し人口・面積・GDPにおいて遜色ないことを紹介。また、韮山反射炉の世界遺産登録を機に観光客が増加している現状や、東京オリンピック・パラリンピックを通じてサイクルスポーツを伊豆半島の資産（レガシー）にするという今後の展望、そのための体制づくり等についてもお話し頂きました。その中で土屋氏は「これら観光政策を、伊豆半島とその周辺地域が一体となって行っていく必要がある」と力強く述べました。講演後には参加者から、沼津市の人口減や採用難に対する県の対策や支援についての質問が挙がり、県としてJOBステーションなど様々な受け皿があると土屋氏から回答を頂きました。今後、同友会・各企業として県東部の未来づくりにどのように関わっていけるのか、何をポイントに将来を考えればよいのか、沢山のヒントが得られた例会となりました。



土屋 優行氏

松岡 浩氏（㈹松岡製作所・沼津支部）

富士例会

## 愚痴り、怒り、人を生かしていない経営から学び気づき、そしてこれから…

12月21日(木) ロゼシアター 参加33名

報告者である渡辺直俊氏（フジゲン㈱）とは、支部のグループ会等で幾度となく語り合い、酒を飲み明かしたこともあり。しかし今回の報告で、これまで知り得なかった氏の心の内や別の顔を見ることになりました。父である先代社長、兄である現社長との見解の相違。知識ゼロからの生産部門立ち上げ。今思う、父への感謝。社員との乖離。特に、社員を叱ることが多く、社員に任せることが出来ず、人を生かす経営が出来ないという苦悩は、聴いている我々の心に痛烈に響きました。生産部門全般について理解しているのがマルチに仕事をこなせてしまう渡辺氏しかいないという状況故に、全て一人で解決してきてしまっていた。このことが、現在の悩みを大きくしてしまったのだらうと感じます。



渡辺 直俊氏

「任せる人を育てていますか」と、氏の悩みに沿うテーマで行ったバズセッション。仲間達から寄せられた意見感想は、悩み解決のヒントになったでしょうか。これからも同友会で一緒に悩んでいきましょう。

遠藤 正人氏（㈱富士トレーディング・富士支部）

# 支部だより

富士宮例会

## 世界遺産登録とまちづくり

1月12日(金) 志ほ川バイパス店 参加47名

ニュース等で報道されていましたが、2017年12月23日に「富士山世界遺産センター」が富士宮市にオープン。正月が明けるまで、世界遺産センターと浅間神社への初詣客で周辺は大変混雑し、世界遺産登録の効果を実感しました。



二又川 直之氏

新年例会は、世界遺産登録の行政サイドのキーマンである二又川直之氏（富士宮市企画部富士山世界遺産課主幹兼企画係長）をお招きし、行政の立場と世界遺産登録についてお話し頂きました。これまでは法律による規制があり、観光振興で行えなかったことが、世界遺産登録されたことで可能になっています。例えば、これまで環境省から許可が下りなかった白糸の滝のライトアップの実施や、滝周辺の売店や道路などの周辺環境の整備を加速度的に進めることができている、とのことでした。

世界遺産登録というと、観光面でのメリットが目が行きがちです。しかし、世界遺産という言葉に大きな説得力があり、これまで規制があつてできなかった街づくりを、世界遺産を中心として実施できるということが、二又川氏のお話から分かりました。この話をきっかけに、市民一人ひとりがより良い街づくりを提案していければ、と考えさせられました。

山田 真実氏（司法書士 富士ファミリア事務所・富士宮支部）

志太例会

## 平成29年10月「金融検査マニュアルの廃止」!!銀行の行く先は?

1月18日(木) 藤枝市産学官連携推進センター 参加22名

志太支部会員の吉田和弘氏（吉田道明税理士事務所）が、平成29年10月の「金融検査マニュアルの廃止」によって今後銀行はどう変わっていくのか、「銀行を活かす経営」をしていくにはどのようにしていけばいいのかということ、税理士の視点から報告しました。



吉田 和弘氏

吉田氏によれば、現在は企業と直接関わる各支店の営業部ではなく、銀行審査部が与信判断まで行っており、企業と銀行のズレが大きくなっているとのこと。「企業は永続的に成長し、存続していかななくてはならない」という使命感を持ち、未来へ力強く歩いていこうとする企業に対しては、金融検査マニュアルが廃止され事業性評価が導入されることで、国や銀行も後押ししてくれるようになるのかもしれませんが、ただ、そればかりに期待するのではなく、中小企業は自らの力で道を切り拓いていく力がなければ進んでいけないと思います。様々な壁を乗り越えながら、適切に銀行と付き合い、輝く未来を描き実現する事業をしていかなければならないと感じました。

山田 幹也氏（株立花ガーデン・志太支部）

中遠例会

## 第14期創る会受講生 経営指針発表会!

1月18日(木) ワークピア磐田 参加21名



第14期経営指針を創る会（以下、創る会）を受講した3名による経営指針の発表を行いました。藤井陽介氏（㈸藤井建築）は父親が創業した町大工の後継者で、事業承継を見据え創る会を受講。「指針を成文化したことで自身の思いが形になってきた。同時に今後の課題が見えてきた」と、受講を通じて進むべき方向が定まってきた様子でした。

北井寛己氏（㈸キタイ電気）も同じく後継者として創る会を受講し、「自身の考えの甘さや経営者としての知識のなさを痛感した」と自身を見つめ直す機会になったようです。また、現社長である父と、創業時の思いや自社の定義を初めて本音で話すことができ「今後は労使関係についても同友会を通じ追求していきたい」と話しました。

創業者の榊田義高氏（マスタテクノ(株)）は様々な苦い経験を経て、自社には基盤となる理念の再考が必要だと感じ、創る会を受講。発表では、経営指針に基づく既存事業の強化に加え、新工法の模索や新商品の提案など、今後のビジョンが明確となっており「なにより指針を創る上で全社員の幸せを一番に考える」という決意が定まっていました。例会を通して、経営指針の意義や重要性を改めて共有することができました。

三倉 滋人氏（㈸大橋商事・中遠支部）

浜松例会

## 我が社を語る!

1月23日(火) エニシア浜松 参加13名

新会員である楠林壮太氏（塗り物アート かがや）、野村加織氏（社会福祉法人復泉会）が報告しました。

楠林氏は「次世代につなげる新商品開発」と題し、主力商品の「焼香用香炉の漆塗り」の紹介や、漆塗りの技術・色や価格の違いなどについて報告。そこからどのような商品に展開していったらいいかという氏の問いかけに対し、バズセッションでは海外へのアピールやお土産・小物などの商品開発、漆塗りの和室など様々な提案が挙がりました。野村氏は「社員のモチベーションを上げるには」と題し、自社の紹介と現状抱える職員の人間関係の問題について報告しました。社員を雇えば必ず人間関係の問題があります。バズセッションでは、役割の明確化や適材適所、組織図の貼出しなどの他、やるべきことが出来ない時、トラブルを恐れて言わないのでは無く、なぜ出来ないのかを徹底的に議論し、どこに出来ない理由があるか明確にすることで、今まで以上の関係が構築できる、といった意見もありました。

入会間もない両名でしたが、今回の報告を機に、仕事内容以外にその人柄や考え方までも分かりあえるようになりました。

江間 省豪氏（江間企画・浜松支部）



楠林 壮太氏

# 同友会イントロセミナー IN 沼津

オブザーバーにも聴いてほしい

## 「同友会と私」

1月17日（水） 沼津商工会議所 参加40名

沼津支部主催のイントロセミナーが開催され、15名のオブザーバーを含む40名が沼津商工会議所に集まりました。平野事務局長による同友会の説明に続いて、辻本光裕氏（㈱辻本企画）が「同友会と私」をテーマに報告しました。

「便利屋つじもと商会」として創業し、頼まれたことは何でもやっていた辻本氏。同友会は企業



のやり方を学ぶ場所だと勧められ、入会します。その後、支部の経営指針を創る会に参加し、仲間たちの厳しい意見やアドバイスを機に自社・自分と向き合う中で、自分の強みを見出しました。かつては漠然としていた経営目的が今では明確になり、業務を遺品整理に絞るなど段々と理想の業務形態に近づいてきた、とのことでした。オブザーバーへ「共に学ぼう」というメッセージと共に、同友会での経験から自社や自身が変わってきたことを伝えました。



辻本 光裕氏

グループ討論では「御社はどんな課題に取り組んでいますか？」をテーマに、ゲストの方とも自社の課題やその解決に向けた取り組みを話し合いました。採用や社員教育、事業承継など様々な悩みが出てきましたが、「人に任せること」「第一目標を数値にしない」「素直な姿勢を大切にする」など、課題解決のために経営者としての姿勢が重要になってくることを学ぶことができました。

今回のイントロセミナーは2名のオブザーバーが入会したいと感想を述べ、有意義なセミナーとなりました。

## 連載 Seinenbu Tsushin 青年部通信

第9回

2017年12月11日、榛原支部3月例会で報告する梅田益生氏（㈱ウメイチ 取締役事業部長・岐阜同友会）を、榛原支部メンバー4名、志太支部2名、静岡支部から1名の計7名で訪問しました。

まず、ウメショウ本店に伺い、梅田氏のプロフィールや現在の取り組み、同友会の学びをフルに活かした経営実践を聞きました。呉服店を営む父の会社へ7年前に入社。以後、呉服業界が最盛期の1/6へ減少する中、「安心して働ける会社」をめざし、人材採用の方法や社員の多能工化など、様々な取り組みを行ってきました。32歳という若さで、これだけ同友会での学びを経営に落とし込み実践している経営者がいるのかと、

メンバー一同大変驚かされました。その後、梅田氏の想いの詰まった新店舗に移動。老舗の本店とは違い、現代的な店舗、そして内装、各所にこだわりを感じる店内に、梅田氏がこの店舗に掛ける想いを、随所に感じる事が出来ました。

そして、訪問後の岐阜同友会青年部のメンバーとの懇親会では、お互いの経営の悩みや今後の展望、同友会の活動について、みんなで語り合い、岐阜のメンバーからは沢山の刺激を頂き、非常に学びの多い一日となりました。

今回の訪問を通じて、榛原支部の3月例会は、素晴らしい例会になると確信しました。榛原支部だけではなく、青年部メンバーをはじめ他支部の皆さんも参加出来ます。ぜひ、ご参加ください！

鈴木 克哉氏（㈱ガーデンプラン季風庭・榛原支部）

「半径1メートルを笑顔にする会社」を目指して

## (有)ティーパワー

代表取締役 若杉 幸秀氏 (静岡支部)

事業内容：印鑑・印刷製造販売  
 創 立：1997年1月  
 社 員 数：6名  
 入会年月：2008年4月  
 所 在 地：静岡市駿河区八幡5-3-2  
 T E L：054-289-0777  
 U R L：http://hanko1.com/

### 印刷屋からはんこ屋へ

静岡市駿河区で「駿河はんこ市」という印鑑・印刷の製造販売を行う店舗を経営する、若杉幸秀氏。印刷関係の会社勤務を経て、1997年の1月に独立。印刷機を導入し、名刺、ハガキ、封筒等の小物の印刷物を印刷するところからスタートしました。順調に業績を伸ばしていましたが、その5～6年後に取引先が倒産し、300万円もの売掛金が回収不能に。この件で掛売りの怖さを実感した若杉氏は、現金売上を増やす方針をとります。そして2003年に店舗をオープンし、印鑑の取り扱いを開始しました。

### 同友会の仲間との出会い

同友会への入会は2008年。全国大会にも何度も参加し、その度に刺激を受けたと言います。50歳になった

のをきっかけに人生を振り返り、一からやり直すことを決意。支部内の若手経営者を集めて、早朝の勉強会を始めました。その活動が原点となって、県や支部の青年部の立ち上げにも尽力することになりました。同友会に入会し、仲間が増えたのが一番良かったと振り返ります。



若杉 幸秀氏 (左)

### 売上アップの戦略は商品開発

昨年、主要得意先の受注が大幅に減ったこともあって、現在は立て直しの力を注いでいます。特に力を入れているのは商品開発。箔押しのおんデマンドプリンターを導入したことで、小ロットからのクリアファイルの作成が可能になりました。また、会員企業の協力を得、オリジナルポストイットを作成しました。これらはノベルティとして売れている、と言います。

従業員が「この会社において良かった」と思ってくれるような会社を目指したいと語る若杉氏。「半径1メートルを笑顔にする会社」という経営理念を掲げ、日々新しいことに取り組んでいます。

取材・記事 藤本 浩氏 (プリントバリュー(株)・静岡支部)

## 本業を軸に新たな市場にチャレンジ

## (株)ベーシック

代表取締役 名倉 篤史氏 (中遠支部)

事業内容：電子機器製造業のリサイクル提案、新電力を中心とした省エネルギー提案によるコスト削減  
 創 立：1974年10月  
 社 員 数：社員6名 パート3名  
 入会年月：2016年7月  
 所 在 地：磐田市豊田8-1  
 T E L：0538-35-7203  
 U R L：http://basic-co.jp/

### ニッチな事業

(株)ベーシックは、金属のリサイクルを主な事業としています。メインは、はんだやクリームはんだなどの特殊金属という、業界でもニッチな存在であり、買取り品目の多さでは東海エリアNo.1です。電気機器産業が急拡大する1974年に父親が磐田市内で起業。はんだだけでなく、設備更新時の廃材も引き取るなどのサービスで支持を得ました。顧客と共に成長を続けてきましたが、そこに襲ったのが2008年のリーマンショック。名倉氏が社長に就任したのは、この頃でした。

### 新分野に飛び込む

電気機器産業の成熟に伴い、各社とも価格・サービスが横並びになり特徴を出せず、顧客はほぼ固定化し

成長も鈍化していききました。その打開策を模索していた名倉氏が着目したのが、当時部分的に自由化され始めた「新電力」の代理店事業でした。

工場中心の既存顧客に提案できると目

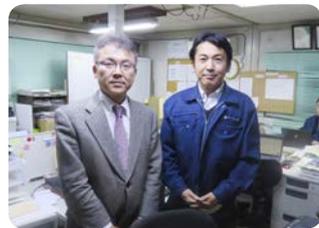
論みましたが、当初は全くのあて外れ。しかし、完全自由化の流れに乗ると契約は次第に増え始め、今は全売上の一定の割合を占めるまでになりました。「成長してこそ企業」と語る名倉氏。父親同様、新分野にいち早く参入し、粘り強く継続してきた成果です。

### 金属リサイクル業の幅を広げる

新電力の勢いにも次第に陰りが見え始め、シナジー効果の見込める新展開を思案していた最中、そのヒントを求めて同友会へ入会。「会員が切磋琢磨する姿が刺激になっている」と、意義を見出しています。

父から引き継いだ本業を新たなステージに導く名倉氏。「金属リサイクル業の幅を広げていきたい」と業界の未来をも見据えていました。

取材・記事 鈴木 弘之氏 (税理士法人 あい会計・中遠支部)



名倉 篤史氏 (右)

## 新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1094名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
あき 秋 山 桂 介 (株)タス力 情報通信業 (映像製作、ネイルサロン経営)	三 島	高 木 基	
ぬま 沼 田 大 介 あゆみ(株) 商社、建設業 (光触媒販売・施工、医療機器・医療廃棄物処理機の販売、一般建設業)	沼 津	越 膳 徹	
の 野 島 大 輔 (株)BuildEast 建築業全般、建築設計業 (内装工事、店舗工事、設計業務)	沼 津	石 澤 浩 一	
たき 瀧 本 え り TOTAL THERAPY ELLY 心理カウンセラー (心理療法を用いた人間関係解決、脳科学・言語学・心理技術による心身の病気の改善・解消)	静 岡	浅 原 聡 子	
ふじ 藤 井 真 二 スカイライトチューブ静岡 建築資材卸売業 (太陽光照明スカイライトチューブの静岡県特約店として施工から販売までを行う)	静 岡	平 岡 浩	
おお 大 畑 勝 慶 駿遠三菱自動車販売(株) 自動車販売 (新車・中古車販売、整備、保険代理店)	志 太	松 葉 秀 介	
うえ 上 村 光 太 郎 (株)パシオス 農業	中 遠	大 橋 徳 久	
かね 兼 古 東 志 浩 (株)アイビス 電子機器製造業 (工場向け生産設備設計・製造、電子応用機器設計・製造)	中 遠	大 橋 徳 久	

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

## 友達の輪 第46回

「経営指針を創る会」同期の柴田和哉さん(ヤマサン・志太支部)よりご紹介頂いた、(有)大橋商事の遠藤健正です。弊社は各種の廃棄物処理を生業とする会社です。いわゆる創業家ではない立場の私が後継者候補となるにあたって、自身に3つの課題をもうけました。ひとつは財務改善、もうひとつは人を育てること、そして収益を確保する仕組みを機能させることです。これらに取り組む中で、私は同友会での学びを深めていきました。支部での活動は勿論のこと、特に影響を受けたのは、各地で開催される全国大会への参加と、経営指針を創る会でした。多くの先輩経営者と出会わせて頂き、文字通り魂の震えるような感動を得たり、「創る会」受講後はスタッフとして携わらせて頂くことで、「勝ち負け」とは異なる新たな価値観を学んだり、人生が大きく変化するまでになりました。経営はその人の生き様そのものであると教えられる中での学びは、時に自身の欠点を炙り出されるような場面もあり、強烈な痛みを伴うことさえあります。それでも自ら掲げた3つの課題が確実に解決されてく手応えを感じることは、大きな喜びでもあります。引き続き新たな気付きを求めて、学びを深めて参りたいと思います。



遠藤 健正氏

次回の「友達の輪」は、須山由佳子氏(有)キャリア・アップ・浜松支部)です。須山さん、よろしくお願ひします。

遠藤 健正氏 (有)大橋商事・中遠支部)



故 関澤 紀一 氏 (株)大一セラム・富士宮支部 1941年1月2日生(満76歳) 1985年11月入会

### 関澤 紀一さんを偲んで

昨年末、私が敬愛する兄貴分である、(株)大一セラムの関澤紀一さんが逝去されました。年の差9年の兄貴でしたが、妙にウマが合い、支部グループ編成でもいつも一緒、社員を愛することは同じですが、規律から入る兄貴、放任から入る私。二人の議論は、支部の語り草になりました。新入会員の「関澤さんと河原崎さんは仲が悪いんですね」なんて声が聞こえてくれば二人で顔を合わせてニンマリ。創業者としては同じ立ち位置ですが、18歳でスポーツバック一つで富士宮に来て、現在の(株)大一セラムを築き上げた兄貴を尊敬していました。富士宮の全研フォーラムで分科会を受けてくれた時、実行委員長と分科会の座長を兼ねたり、兄貴のためなら、もっと色々なことをしたかった。また一人ミスター同友会を失った。冥福を祈ります。

河原崎 信幸氏 (シンコーラミ工業(株)・富士宮支部)



静岡同友会 Facebook ページで、会員企業訪問の様子や各支部例会の案内を掲載しています。ぜひご覧ください！



1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。